

好奇心や探究心が更に膨らむ保育計画 ～万華鏡作り～

刈谷市立重原幼稚園（愛知県刈谷市）

[5 歳児]

◆計画

子どものつぶやきや言葉・表情などから、気付き、発見、好奇心や探求心を膨らませている姿を記録し、心の動きや育ちを読み取り、子どもを深く理解する。

子どもの発見や遊びを活かすような長期的・継続的な見通しをもち、季節や時期に合った保育計画を立てる。様々な思いを巡らせながらとことん没頭し、こだわって強く好奇心を抱いたり、深く追求したり、探求したりできるような環境や援助を考える。

以上のことを踏まえ、目的に向かって思いや考えを出し合いながら友達とのかかわりが深まるようにする。また、いろいろな考えに触れる中で「もっと知りたい」「もっとやってみたい」と更に好奇心を高め、追求したり探求したりすることの楽しさが味わえるような環境や援助を工夫する。

◆事例

< 幼児の姿と保育者の願い >

色や模様のきれいさや不思議さに興味をもち、自分なりに試したり工夫したりしながら作る達成感を味わって欲しいと願い、保育室にいろいろな万華鏡を置いておいた。牛乳パックの万華鏡を見て、まねをして作り始める幼児が多かった。友達の作っている物にも興味をもち、その良さに気付いたり、「いいな」と思ったことを取り入れることで新たな発見があることを感じたりして欲しいと考えた。また友達と思いや考えを伝え合う中で「もっと～してみたい」「～するとどうなるかな？」と更なる好奇心や探求心を膨らませて欲しいと願った。

「ここを切ればいいんじゃない?」「ここに鏡だよ」と互いに比べて土台作り。

「これを貼るとどうかな?」花柄の色紙をパックの内側に貼る。

「わあ、お花がいっぱい! すごくきれい」「本当だ。お花がいっぱい」

「じゃあ、私はこれにしよう」

それぞれに違った模様の色紙を選んでパックの内側に貼る。

「わあ、虹みたい」「迷路みたい」

中に貼ったミラーテープがたまたま動いて、

「あっ、動いた!」「うそ! 見せて!」「本当に動いてる」

「分かった! これが動くとも動くんだ」

その後、ミラーテープや紙テープなどを貼ったりして、見え方の変化を楽しむ。

空き箱に小さな穴を一つ開けた物を、いつも万華鏡を作っている場に置いておく。

「何これ?」と空き箱の口が開いている所から中を覗く。

「あっ、何か見えるよ。光だと思う」「光だよ、光」

「これじゃない?」もう一度中を覗き、小さな穴を指でふさいだり離したりする。

「やっぱり、この穴だ」「私にも見せて」「うん、これは光だよ」

「あれ? 変わった! 動いたよ」と、箱を覗いたまま体の向きを変える。

「そうだ、もっと穴を開けたらきれいじゃない? いっぱい動く万華鏡ができそう

じゃない?」「そうだね」「みんなで作ろう」

牛乳パックで作ったときのように内側にミラーシートを貼ったり、光の入る穴を開けたりする。戸外やテラスなど場所を変えたり、覗く角度を変えてみたりしているいろいろな見え方や光が動く様子を楽しむ。



◆事例からわかったこと

今までの経験を活かせるような教材を意図的に取り入れたり、経験を活かすことができるような投げ掛けをしたりすることで、更に好奇心や探求心を膨らませるきっかけとなることが分かった。「自分で気付いた」「私が考えた」と思えることが自信につながるので、保育者がヒントとなる言葉をつぶやいたり姿で見せたりして、自分の力で解決できたことを実感できるような投げ掛け方が大切であると感じた。また、子どもの疑問を見逃さずにとことん付き合う保育者や、とことん一緒に考えてくれる友達の存在が必要であることが分かった。

みどころ

これまでの遊びの経験や子どもの興味・関心を鑑みて必要な経験を取り込み、「これ何だろう?」「どうしてかな?」など、好奇心・探求心が膨らむような教材の用意をしたり指導の工夫をしたりしています。保育者の意図や願いのある計画に加え、子どもが自ら発見したり自分たちで遊びを繰り返し広げたりできるような環境を計画の中に位置づけることで、「科学する心」を育む体験が展開することが期待できます。